

1 調査名称：平成 28 年度路面公共交通システム導入検討業務委託

2 調査主体：名古屋市

3 調査圏域：名古屋市東区、西区、中村区、中区、中川区

4 調査期間：平成 28 年度

5 調査概要：

本市では、豊かな道路空間を人が主役の空間へと再配分することで、“みち”をかえて“まち”を変えていく「みちまちづくり」を具体化するための計画（なごや交通まちづくりプラン）を平成 26 年 9 月に策定した。

この「みちまちづくり」の実現に向けて、都心部の魅力向上を図り都心全体の連携強化や回遊性向上に繋がる新たな路面公共交通システム（LRTやBRT等）の導入可能性を判断するために、検討を行うものである。

なお、調査においては、路面公共交通システムの導入が想定される幹線道路について、現況分析や導入に伴う道路空間のあり方検討等もあわせて実施する。

I 調査概要

1 調査名称：平成 28 年度路面公共交通システム導入検討業務委託

2 報告書目次

◆新たな路面公共交通システムの導入検討

第Ⅰ編 検討の背景と新たな路面公共交通システムの必要性

第Ⅱ編 新たな路面公共交通システムのあり方

第Ⅲ編 導入による効果と課題への対応（需要予測）

第Ⅳ編 導入による効果と課題への対応（収支採算性）

第Ⅴ編 導入による効果と課題への対応（間接効果）

第Ⅵ編 導入の伴う課題と対応

第Ⅶ編 新たな路面公共交通システム整備の進め方

◆道路空間のあり方の検討

第Ⅰ編 検討の背景と現況把握

第Ⅱ編 道路空間再配分による交通影響検証

第Ⅲ編 道路空間の方向性の検討

第Ⅳ編 概略検討図

◆バーチャルリアリティモデルの作成

第Ⅰ編 名古屋市の道路空間整備前・整備後イメージの作成

第Ⅱ編 動画の作成

3 調査体制：本調査は委員会、幹事会、事務局等の設置なし

4 委員会名簿等：該当なし

II 調査成果

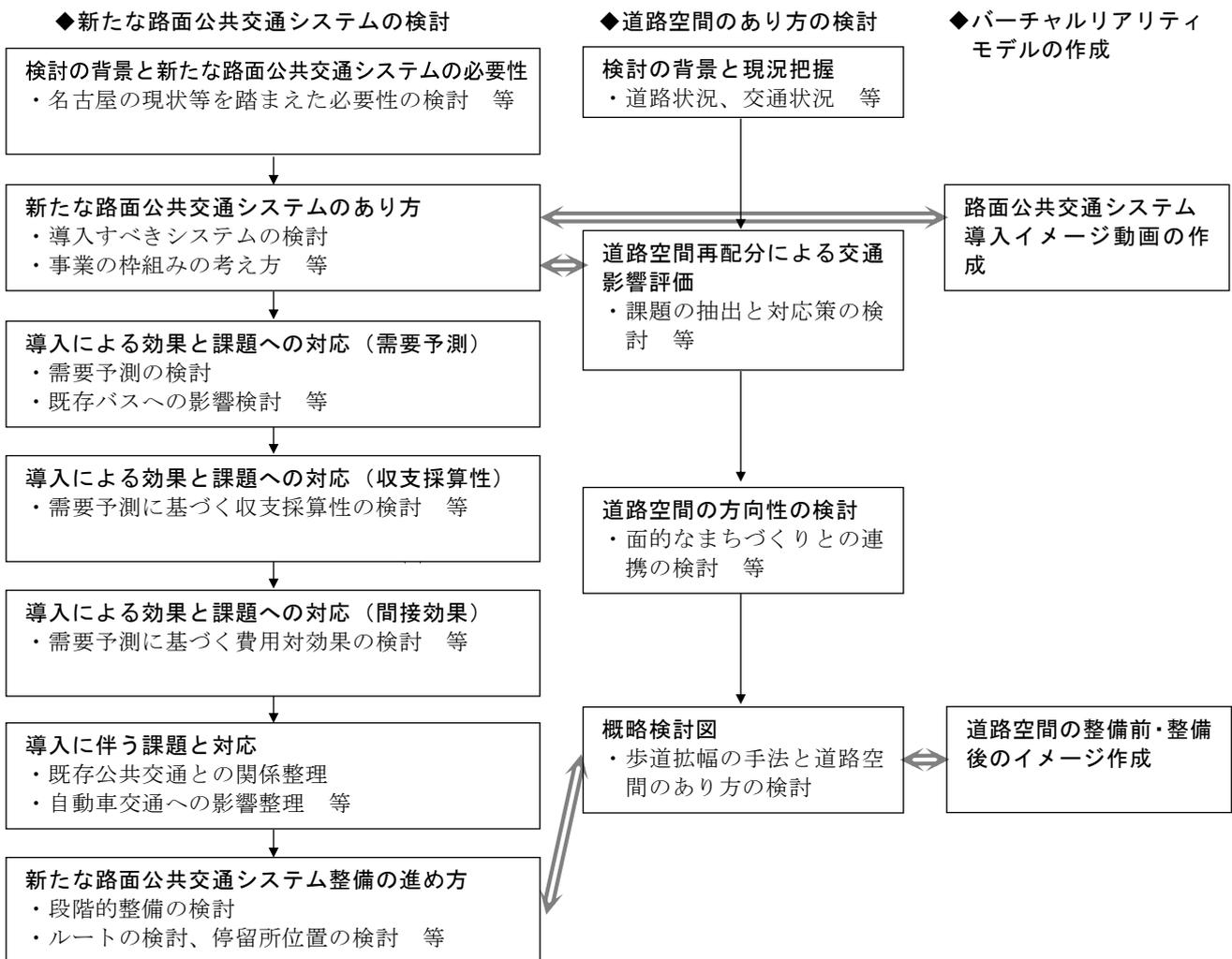
1 調査目的

本市では、豊かな道路空間を人が主役の空間へと再配分することで、“みち”をかえて“まち”を変えていく「みちまちづくり」を具体化するための計画（なごや交通まちづくりプラン）を平成26年9月に策定した。

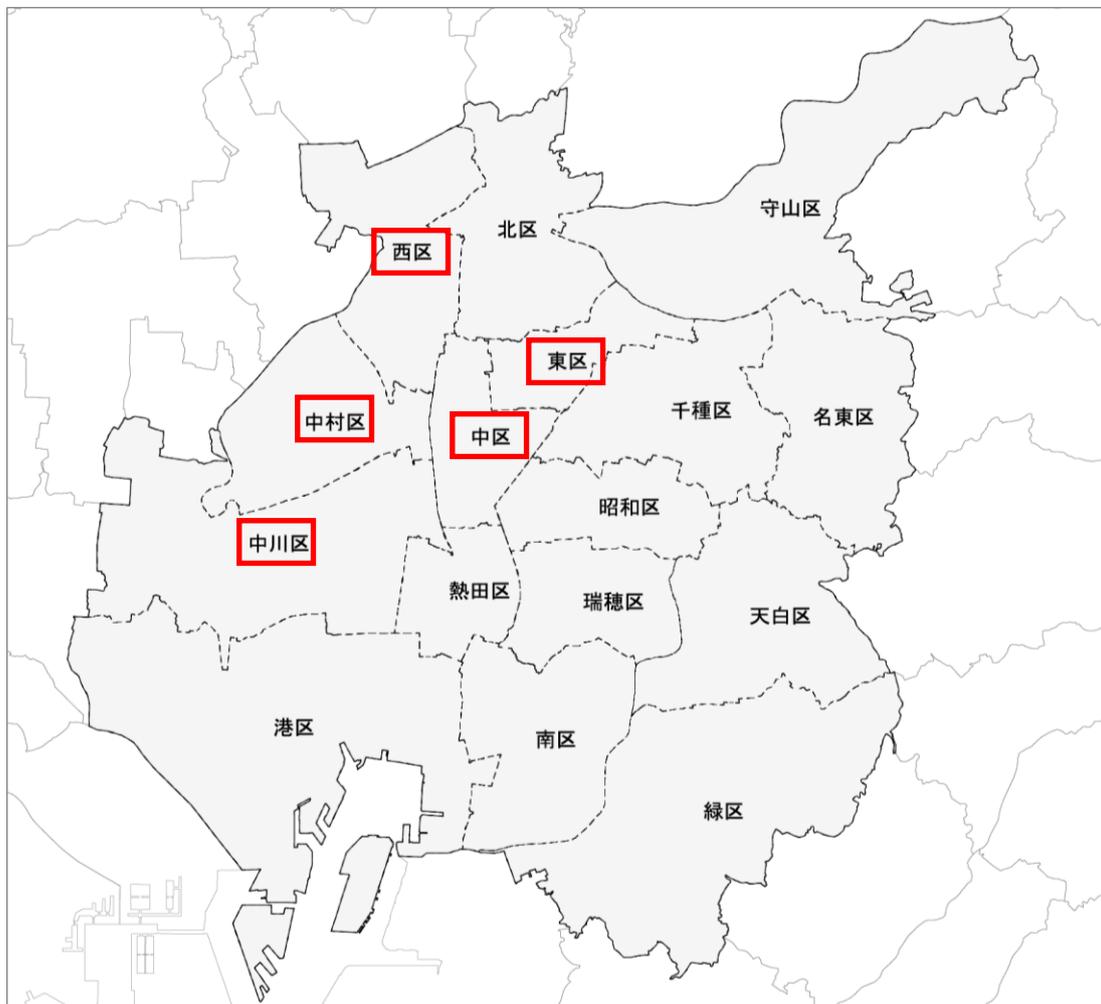
この「みちまちづくり」の実現に向けて、都心部の魅力向上を図り都心全体の連携強化や回遊性向上に繋がる新たな路面公共交通システム（LRTやBRT等）の導入可能性を判断するために、検討を行うものである。

なお、調査においては、路面公共交通システムの導入が想定される幹線道路について、現況分析や導入に伴う道路空間のあり方検討等もあわせて実施する。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

◆新たな路面公共交通システムの導入検討

(1) 新たな路面公共交通システムの必要性

本市では、人口減少と少子高齢化の進展により、都市活力の低下が懸念されることから、交流を拡大させる都市づくりが重要となる。特に今後、リニア中央新幹線の開業やインバウンドの増加、自由目的での移動割合の増加が見込まれることに加え、こうした移動の多くが商業、観光、宿泊施設などが集積する都心に集中している。都心では名古屋駅周辺の開発や栄地区の再生、名駅地区の魅力向上などのプロジェクトが進行しており、こうした取り組みとあわせて、ビジネス、観光、自由目的で「まちを訪れる人」を魅了する都心を形成していく必要がある。

そのためには、回遊性が不足している都心において、主要拠点や、駅から離れた魅力ある地点をつないで移動しやすくしていくことが必要である。また、都心の公共交通は、「まちを訪れる人」の利用を考えると、「わかりやすさ」「使いやすさ」「楽しさ」を十分に満たしているとはいえないことから、楽しく快適に都心を移動できる環境を実現していくことが必要であり、都心での交流を拡大させるインフラとして、歩いて楽しい空間づくりと一体的に、新たな路面公共交通システムの導入を検討していく。

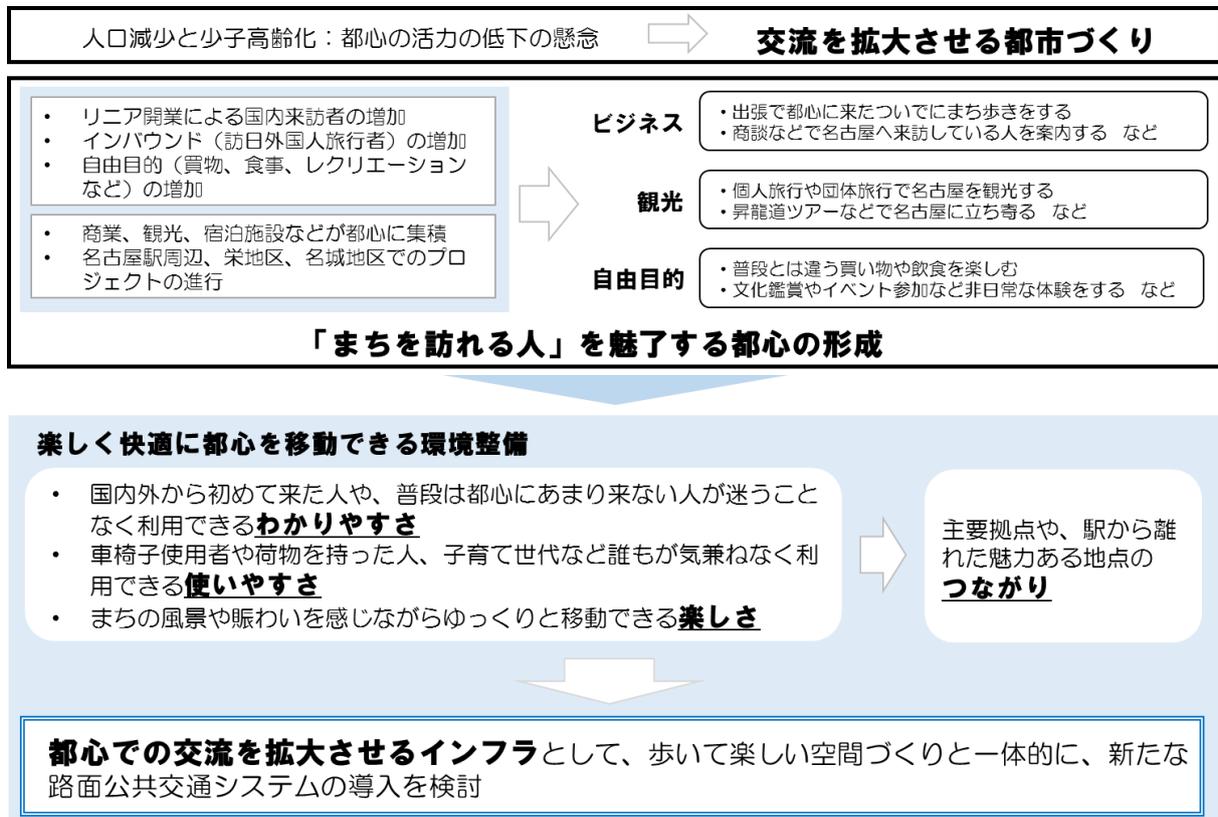


図 新たな路面公共交通システムの必要性

(2) 新たな路面公共交通システムのあり方（導入すべきシステム）

LRTやBRTを比較した場合、LRTは専用軌道を有するため、視認性や定時性、快適性に優れているが、本市のように既存の軌道がない都市では、地下埋設物の移設が生じるなど大規模な道路インフラの改変を含め、新たな投資が必要となり、自動車交通に与える影響も大きいと考えられる。一方、BRTは軌道敷設の必要がなく、経費や工期の縮減、自動車交通の状況やまちの変化にあわせた柔軟な対応が可能であるが、LRTに比べると存在感や快適性において十分でない部分がある。

また、本市は自動車を始め、ものづくり産業が集積する中部の中心都市であり、地域の特性を踏まえて、先進技術を積極的に採用するなど、名古屋ならではのシステムを目指すことが重要と考えられる。

こうしたことを踏まえ、本市では従来のLRTやBRTの優れた点を持ち合わせつつ、「わかりやすさ」「使いやすさ」「楽しさ」を備え、成長性のある、革新的で魅力的なタイヤベースシステムの導入を検討する。

以下に、車両、走行空間・停留施設、サービス水準の導入すべきシステムのイメージを示す。

①車両

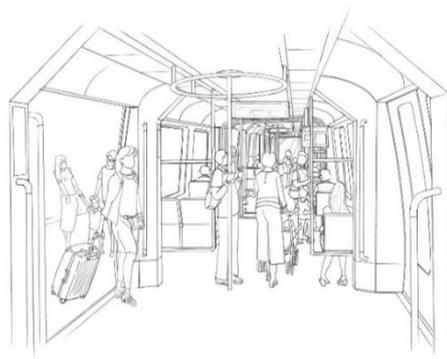
車両

ゆれが少なく、大きな乗降口を備えた車両

大きな窓を備え、段差のない広々とした車内空間

人をひきつけ、乗りたくなるようなシンボリックなデザイン

自動運転による車両誘導技術や、燃料電池システムなどの環境技術等を導入



車内のイメージ

② 走行空間と停留施設

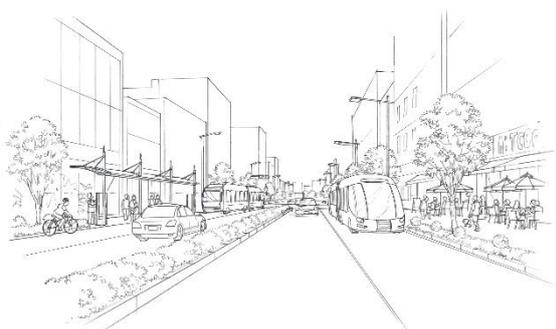
走行空間

存在感のある専用・優先レーンを設置

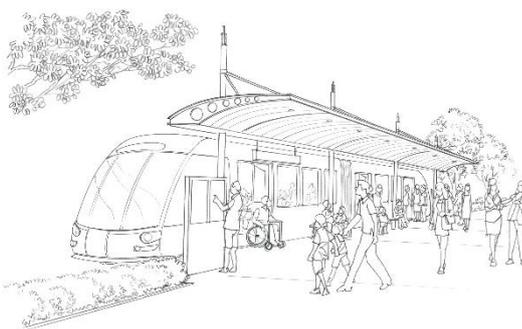
基本的には歩道側走行（サイドリザベーション）

公共車両優先システム（PTPS）を導入

平坦性を保持した快適な走行路



走行空間のイメージ



停留施設付近のイメージ

停留施設

運行状況や乗換案内、まちの情報などを発信する案内システムを設置

まちの賑わいと連続した休憩・待合スペースを設置

どの扉からも段差や隙間がなく乗降可能な環境を整備

他の移動手段と近い位置での乗換え環境を整備

まちなかで見つけやすいデザイン

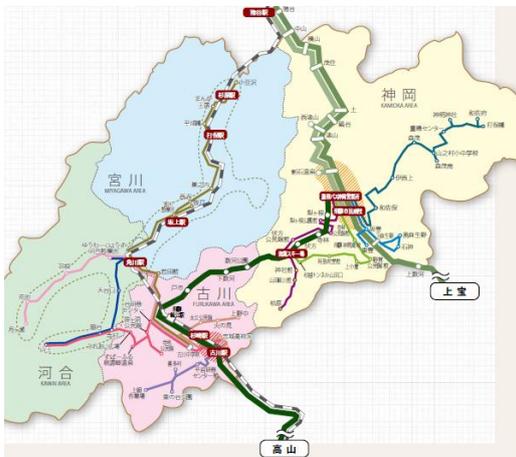
③サービス水準

待たずに乗車できるように、概ね 10 分以内の運行間隔を目指すとともに、まちなかを楽しむ人が利用しやすいように停留施設の間隔は 500m 程度を基本として考え、夜間も運行することを検討する。

また、他の公共交通と一体的な料金体系や、定時性を実現するためにどの扉からも乗降可能な料金収受方法について検討する。

<共通運賃制度の例>

市営バス及び濃飛バスの幹線バスは旧町村内 200 円、旧町村をまたいだ利用でも 300 円に統一



出典：飛騨市公式サイト

<共通乗車券の例>

西鉄バス、昭和バス、JR九州、西鉄電車、地下鉄の 5 公共交通機関で利用可能な外国人旅行者向けの 1 日乗車券



出典：福岡市公式サイト

<料金収受方法の例>



提供：服部重敏氏

車外での乗車券の購入



車内に設置された IC カード読取機と切符に使用日を印刷する機械

(3) 需要予測

需要予測の流れを下図に示す。

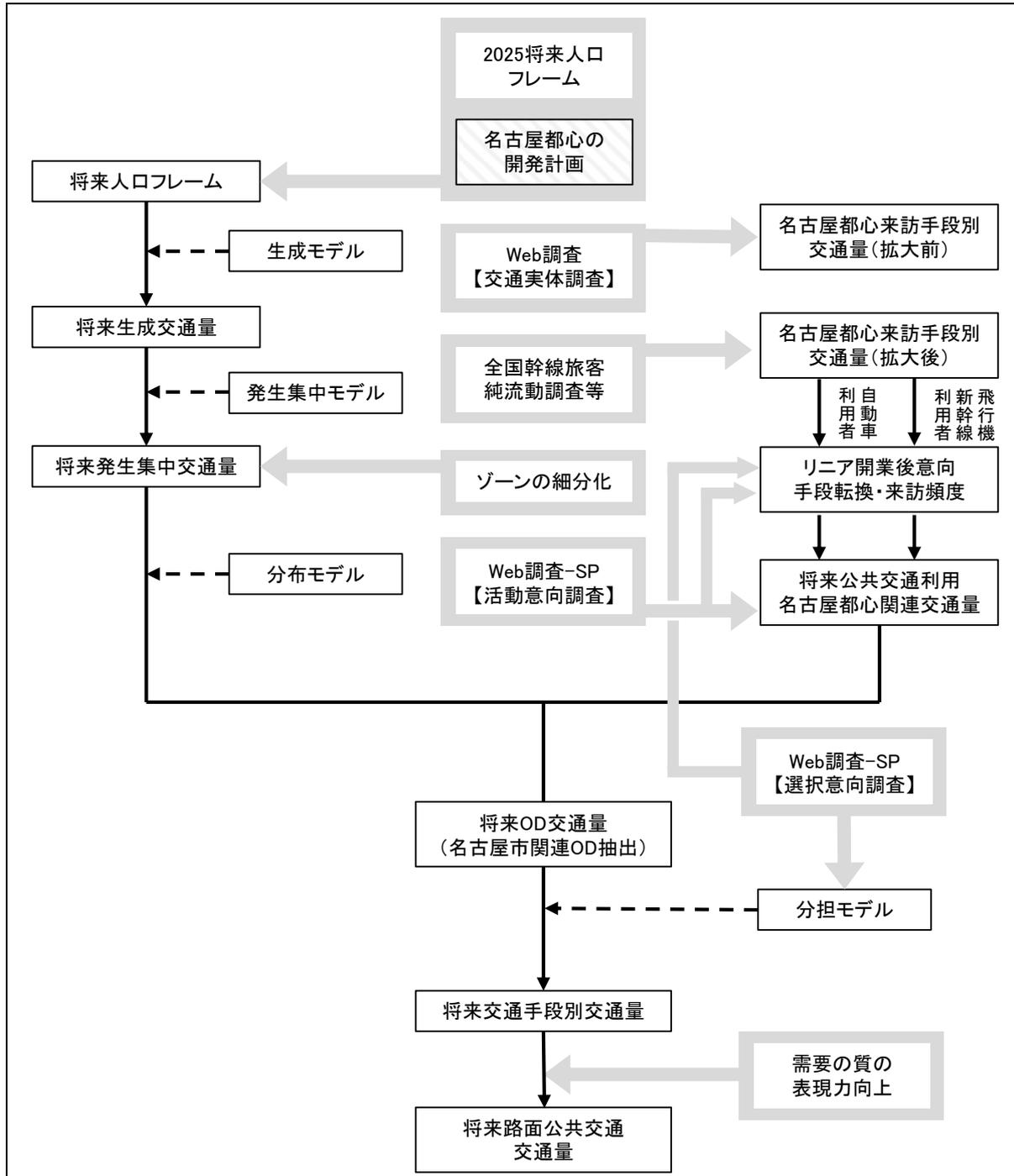


図 需要予測の流れ

(4) 都心をつなぐ考え方

ビジネス、観光、自由目的など、まちを訪れる人の都心での回遊を考え、

- ・ 玄関口となる名古屋駅から、独自性のある拠点である大須地区、名城地区へのアクセスを高める
- ・ 大須地区や名城地区との南北軸に回遊や賑わいを広げるとともに、多くの人が集まる名古屋駅～栄地区の東西軸を強化する
- ・ その他、滞在先となる宿泊施設と主要な観光施設、商業施設、面的に広がる魅力ある地域等をつなぐ



資料：平成 25、26 年度 名古屋市観光客・宿泊客動向調査

図 都心における宿泊施設、魅力地域、観光・商業施設等の集積

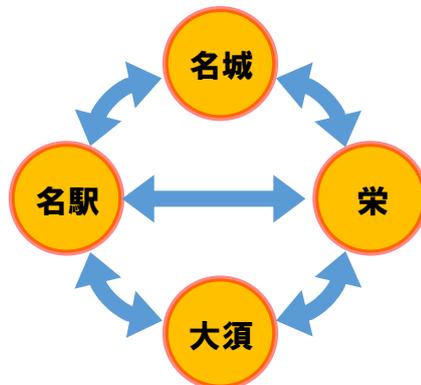


図 「つなぎ方」のイメージ

◆道路空間のあり方の検討

(1) 現況把握

○歩行者交通量

広小路通・大津通を対象として歩行者と自動車の交通量から、広小路通では、休日の13時台以降に1.0千人/時を超えており、平日の2倍程度となっている。

一方、大津通のピーク時では、平日でも1.5千人/時を超え、休日には4.5千人を超えており、平日の3倍程度となっている。

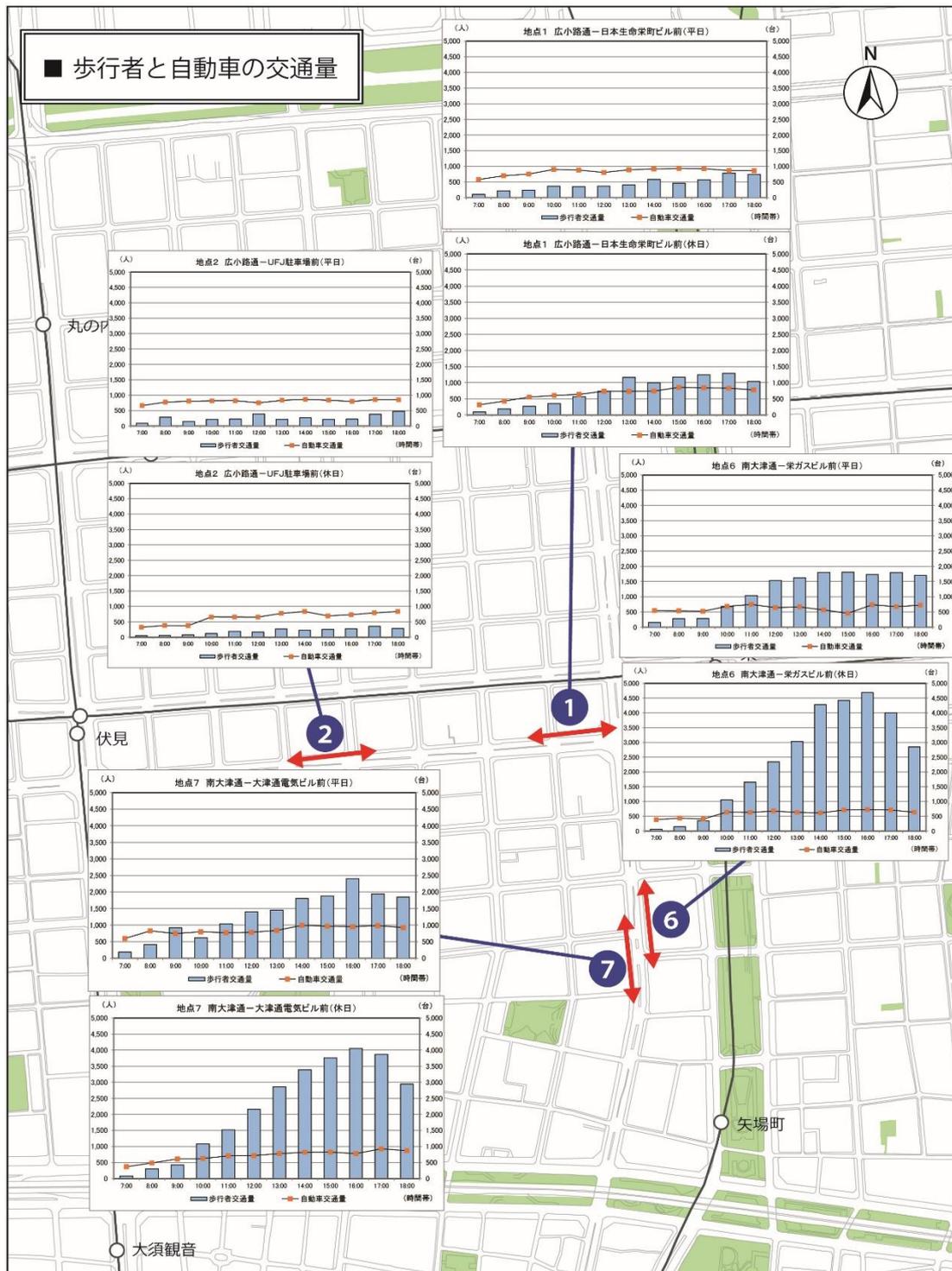


図 歩行者と自動車の交通量

○幅員構成

広小路通・大津通の断面構成をみると、広小路通では歩道幅員が4.75～5.5m確保されており、大津通では5.0m確保されている。

特に大津通では歩行者量の多さに比べ歩道空間が狭くなっているため、歩行者空間の拡大について検討する。

【広小路通】（幅員 30m）

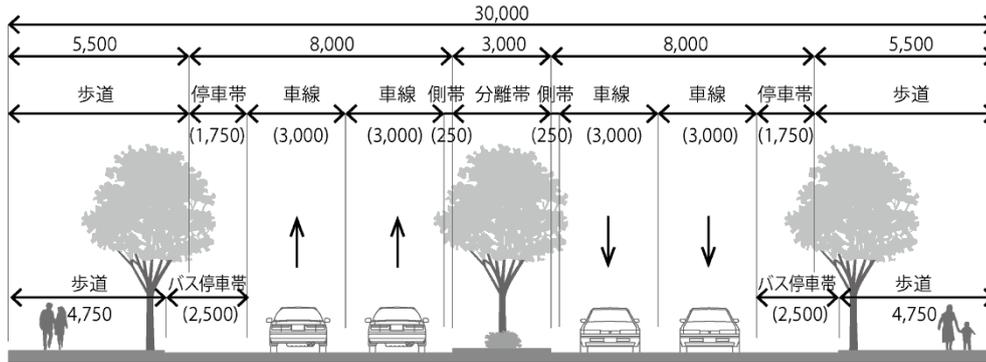


図 広小路通の幅員構成

【大津通】（幅員 30m）

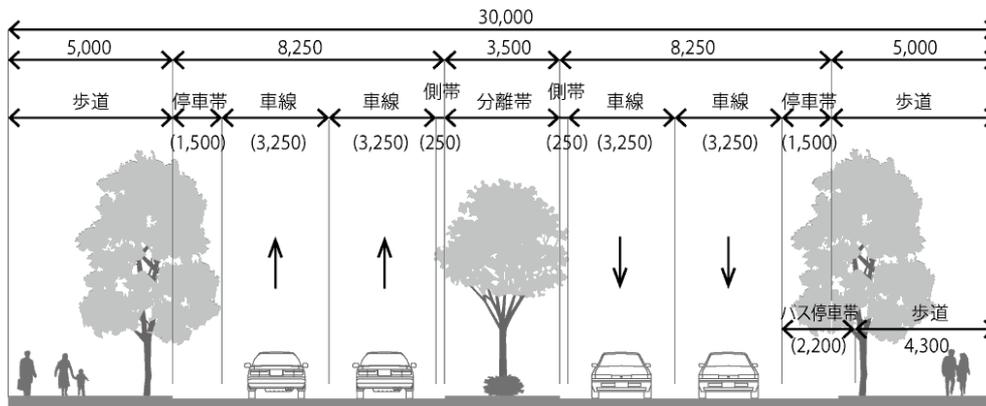


図 大津通の幅員構成

(2) 道路空間再配分による交通影響検証

道路空間の再配分や新たな路面公共交通の導入による自動車交通への影響を検証するため、動的シミュレーションを実施。



図 動的シミュレーションの対象範囲

(3) 概略検討図の作成

賑わい交流軸における歩道拡幅手法と道路空間のあり方を検討するとともに、新たな路面公共交通システムを導入した場合の道路空間について、停留所の形態も含め検討し、概略検討図を作成した。

◆バーチャルリアリティモデルの作成

○停車帯を歩道化した場合のイメージ



図 現況



図 歩道拡幅イメージ

○路面公共交通導入イメージ動画の作成



図 停留所に接近する様子



図 停留所で利用者が乗降する様子